＜空の安全･安心を！整理解雇四要件を守れ！＞　2025.11.19

JAL闘争を支える京都の会News　No.122

京都市東山区今熊野南日吉町 17　FAX：075-531-3856　E-mail：komai123@kfa.biglobe.ne.jp

1兆円の内部留保が利用者の命を守るのか!?

２０２５年１０月２８日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、ＪＡＬ不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「ＪＡＬ闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「合同繊維労組」、「なかまユニオン」、「米軍Ｘバンドレーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計９人にご参加いただきました。ＪＡＬ客乗争議団から神瀬麻里子さんが参加されました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「２０１０年１月にＪＡＬ日本航空は破綻したが、その原因は社員にはまったくない。過去の経営者がおこなった放漫経営、そして日米の貿易不均衡を是正するためにたくさんのジャンボジェットを買わなければならなかった。１１３機ものボーイング７４７ジャンボジェットを購入した航空会社は世界でもＪＡＬだけである。そのジャンボジェットのうちの一機は、残念なことに１９８５年の８月１２日、御巣鷹の尾根に消えた。私たち解雇されたものはあの日も乗務をしていた。私も成田から台湾に向かう飛行機に乗務をしていた。あのような５２０名もの命と暮らしを奪った事故、そんな事故を二度と繰り返したくないと思い、乗務をしながら労働組合運動をしていた。安全でないものには安全でない、おかしいものにはおかしい、そんなことを個人が経営者に言うのはとても難しい。しかし、それを代表してみんなの声を集めて団体交渉をし、組合ニュースを発行し、会社に伝えるのは労働組合の役割である。山崎豊子さんが書かれた小説に描かれているように、ＪＡＬ日本航空は徹底的に労働組合つぶしをやってきた。５０年、６０年もＪＡＬの最大の目的は労働組合つぶしであった。本当に残念なことである。航空会社の最大

の目的は安全であるはずである。しかし、ＪＡＬは残念ながら儲けを『安全』に使うことはしていない。なぜならば現場から『人が足りない、時間が足りない、部品が足りない』と言う

声が毎日聞こえてくるのに、ＪＡＬはそこにお金を使おうとはしていないからである。ここ伏見にお住まいだった稲盛和夫さんは就任より早々安全より儲けとおっしゃった。そして安全のことを言う前に１兆円の内部留保を作れと言った。内部留保がお客さんの命を守るのか、利用者の安全を守るのか、私は稲盛さんの考えは間違っていると思う。稲盛さんが私たち１６５名を解雇した。解雇した後で、あの解雇は必要なかっただとか、解雇を決めたのは私ではなくて弁護士だとか、そのようなことを言いながら残念ながらお亡くなりになった。本当に残念である。稲盛和夫さんは経営の神様と呼ばれ、本屋さんにはたくさんの著書が並んでいるが、経営の神様がこんな必要のなかった不当な解雇をするだろうか。ぜひここ伏見の皆さんにはこの問題にご理解をいただいて、周りの方に広めていただきたいと思い、毎月ここで仲間と共に宣伝をさせていただいている。仲間がお配りしているカラーチラシをぜひお受け取りになり、私たちの運動にご理解とご協力をお願いしたい。」と訴えました。他に「なかまユニオン」のＫさん、会員のＩさんもＪＡＬ不当解雇撤回を訴えました。

神瀬さん（ＪＨＵ）の参加報告　（ＪＡＬ不当解雇撤回争議団の facebook から）

2025 年 10 月 28 日

京都伏見区の大手筋商店街で定例宣伝を行いました。風が強くて寒い中、商店街の中を移動しながら 3 ヶ所で訴えました。

受け取ったビラを読んでいる若者に声をかけました。中学生とのこと。

「素晴らしい活動をされていますね。若者も頑張らないと。頑張ってください」と激励を受けました。

次回　宣伝行動　　（呼びかけ　ＪＡＬ闘争を支える京都の会）

１１月２５日（火）　　午後２時～３時　伏見・大手筋商店街